

聴導犬ユーザーによる聴覚障がい者の聴導犬ニーズを満たす

全日本聴導犬・介助犬ユーザーの会 News Letter



27号

HP: <https://www.hearingdog.or.jp/index.php?f=hp&ci=10146&i=10182>

E-mail: inf@hearingdog.or.jp

Fax: 0265-85-5088 Tel: 0265-85-5290

〒399-4301 長野県上伊那郡宮田村 7030-1 (福)日本聴導犬協会気付 「全日本聴導犬・介助犬ユーザーの会」

「全日本聴導犬・介助犬

ユーザーの会新聞」

発行人: 岸本宗也

編集手伝い: 日本聴導犬協会
スタッフ

編集: 有馬もと、MAYUMI、
野崎幸菜

発行: 年2回

事務局: 〒399-4301

長野県上伊那郡宮田村 7030-1

(福)日本聴導犬協会気付

※無断転載・転用厳禁です

引退犬・高齢犬・難病犬の医療費に
引き続きご支援をお願いします

「全日本聴導犬・介助犬ユーザーの会」会長・聴導犬みち君ユーザー

岸本宗也

二〇二四年十一月十六日・十七日の両日、大阪府国際障害者交流センター(ビッグアイ内)で、大阪府が主催の「第二十一回共に生きる障がい者展」が開かれ、日本聴導犬協会も参加しました。私はユーザーとして聴導犬みち君と共に体験談の紹介をし、協会スタッフとPR犬ひめちゃんがデモンストレーションをしました。みち君も自発的に素晴らしきデモンストレーションをし、観客の皆さんは大変嬉しがってくださいました。ただ、今回は、大阪府が



共に生きる障がい者展で体験談紹介。

みち君も自発的にデモを披露。

らのご依頼が十六日の聴導犬ユーザーの体験談とデモンストレーションのみとなっており、十六日・十七日両日のブース出展もなかったのが残念です。PRとしては不十分と感じました。次回は是非二日間のデモンストレーション・体験談の出演とブース出展の方が良いと思います。二〇二四年十二月中旬に聴導犬ユーザー希望者様一名の認定試験があり、認定委員の一人である障がい者相談員として、私も参加しました。続いて、二〇二五年の二月にも聴導犬ユーザー希望者様がもう一組、認定試験を受けられる予定です。新しいユーザーの仲間が増えていくことが私も嬉しいです。今後も、ユーザーの会の会長として、聴導犬普及啓発の努力をしていきます。ユーザーの皆さんも、ご協力よろしく願います。日本聴導犬協会の収入は寄付や助成、募金、講演会の謝礼などです。最近物価が高騰し、特に協会の引退犬や老犬、難病の犬たちの医療費が高額で、厳しい財政状況が続きます。十二月十二日から、医療費へのご寄付として「たかちゃん基金」のクラウドファンディングがスタ



聴導犬は生きにくさを支援してくれると期待しています



こちらから
ご支援の協力をよろしく
お願い申し上げます。

聴導犬と供に歩む

聴導犬ひさちゃんユーザー希望

K.S

私は、生まれつき聴覚に障がいがあります。「聴導犬」という言葉を初めて耳にしたのは、高校生の時でした。当時は、親と住んでおり、学校でも手話が常にある環境で、聴導犬の必



要性をあまり感じませんでした。月日が流れ、大学入学と同時に一人で生活を始めると、生きにくさをもとても感じるようになりました。まず、玄関のチャイムに気付くことができないうので、来客対応ができませんでした。その他にも、車が後ろから来ていることに気付かず怒鳴られたこともあったり、電車が止まった際に身動きがとれなくなったり等、多くの困難がありました。そんな時、学生時代に知った「聴導犬」を思い出し、今の自分には必要ではないかと考え始めるようになりました。

を受ける分、ひさちゃんのメンタル面や日常生活での支援は私が行うことで、一緒に楽しく過ごせたら良いと今は願っています。現在、コロナや国際情勢の影響で聴導犬の育成費や協会の運営費が逼迫していると聞いています。協会への応援を、私からもお願いしたいと思っております。皆さま、よろしくお願ひいたします。

癌サバイバーの夫の生きがいは、介助犬との訓練

候補犬こうちゃん希望者家族

大木奈ハル子

四十代と六十代の夫婦二人暮らしで、四年前にソーシャライザーをはじめました。二〇二二年には夫ががんを患ったこともあり休み休みではありますが、できる範囲で活動を継続しています。わずかでも、聴導犬・介助犬の育成にお力添えできれぱという気持ちで取り組んできた私たち夫婦ですが、なんとこのたび介助犬のユーザーになるために、訓練をはじめました。

実は夫は今の病気がきっかけで、手足も不自由になり、医療関係者の推薦で、障害者手帳も取り、今では

日常的に家族の介助が必要です。二〇二四年の春に日本聴導犬協会のデモンストレーションを見た際に、介助犬の仕事内容が、私がしていることにそっくりだと気がついたのです。夫に介助犬のユーザーになることを提案すると、二つ返事で「やりたい！」とのこと。病状は徐々に進行していくため、自動車の運転を諦め、仕事も退職して、杖が必要な日も増え…と、出来ることが減っていく中で、介助犬のユーザーになることが、夫にとって一番の生きがいとなっています。

相棒は、知的欲求が高いために、聴導犬と介助犬双方の訓練を習得したこうちゃん(ゴールドドワードル)です。こうちゃんは、ブリーダーさんから「障がいのある方のために」と、譲渡いただいた子です。まだ訓練ははじまっ



ソーシャライザーで様々な候補犬と過ごしました

たばかりですが、一日のほとんどを家の中で過ごす夫のよき相棒となり、動作を助



こうちゃんとの訓練が生きがいです

けるのはもちろんのこと、心の支えになつてくれるのではないかと思つています。夫や夫のような聴導犬・介助犬を必要とする人たちが、聴導犬・介助犬と暮らせるよう、これからご支援と応援をお願いします。

「全日本ユーザーの会」会員募集
 ◆この団体の設立当初の会費を毎年十月一日までに支払う。
 (1)正会員(補助犬ユーザー) 年会費 三千元 入会金 三千元
 (2)賛助会員(補助犬ユーザー家族) 年会費 五千元以上
 (3)協賛会員(個人・企業・団体) 年会費 五千元以上
 ※ 当会運営のために、ご寄付をいただければ幸いです。なにとぞよろしくお願ひ申し上げます。
 ※ 会費やご寄付は、ユーザー新聞七千部印刷と発送費用の一部、会員の環境改善、ロビーイング(陳情活動)などに使われます。経理報告は、理事会の承認を得て、年一回報告されます。